



ブリティッシュ・
カウンシルの
講師に聞く

IELTS テストのコツ

by Kevin Thomas

Task 1の図表を見ながら設問に答える問題について
図表の読み取り方から解答の文章を書くポイント、
さらに、スコアアップのためのヒントを解説しよう。

図表で表現されていることは何か

IELTS アカデミック・モジュールのライティング・セクション TASK 1は、図表を見て質問に答えるものです。図表には、表、線グラフ、円グラフ、棒グラフ、チャート、地図、またはそれらを組み合わせたものなど、さまざまなパターンがあります。ここでは、図表で示されていることだけを答えなければなりません。自分の意見・感想を加えてはいけません。まず質問に目を通して、それを別の表現で書き換えてみましょう。これがイントロダクションの部分になります。次に図表を見て、そこで何が表現されているのか、何を目的としたものなのかを考えます。例えば、こういった点に着目してみましょう。

- データの変化を示しているのか、2つ以上のものを比較しているのか
- 示されているデータは過去のものか、過去から現在に至るものか、それとも将来の予測か

時間による変遷や比較を示しているものならば、2つ以上の日付または年などが入っているはず。そうでなければ、ひとつの日付・年しか入っていないか、またはまったく入っていないこともあるでしょう。

図表によって表現が異なる

図表の説明には、特定の語彙を使います。以下がその例です。

変化：increase (増加する)、fall (下落する)
remain stable (安定している)
比較：more than... (…より多い)
less than... (…より少ない)
double the amount of... (…の量の2倍)

プロセスを示すチャートの場合、受動態を用いる必要があります。例えば、チョコレートの製造過程について説明するとしましょう。このような説明の仕方は、大変不自然に映ります。

people crush cocoa beans and then people put the powder into a machine
(人々はカカオ豆を粉砕し、それから機械に粉を入れる)

この場合、焦点となるのはチョコレートなので、次のような文にする必要があります。

cocoa beans are crushed and then the powder is put into a machine
(カカオ豆は粉砕され、粉が機械に投入される)

地図の説明においても、受動態が必要となります。例えば、1980年から2000年にかけての都市の中心部の変遷を示した2つの地図があるとしましょう。2つ目の地図には、もう1つにはない建物があります。私たちに、誰がこの建物を造ったのかわかりません。そこで、People... や They... ではなく、building を主語として、次のように表現します。

a building was constructed during the period
(この間、建物が造られた)

どのような表現の仕方が適しているかを学ぶには、問題集や対策本に目を通してみてください。図表の問題とその答えの文章に目を通し、自分で下線を引きながら、こういった文法が使われているか、パターンを見出すのです。または、IELTS から離れ、普段の生活の中でもこのパターンをつかむことができます。新聞やウェブサイトを見て、統計やプロセスを説明するのにこういった表現が使われているか確認してみてください。

文章の書き方にはコツがある

イントロダクションの次に、図表が示す全体的な内容について触れます。主な変化や大きな傾向につき、数字などあまり細かい内容には触れずにとまめます。続いて細部について語るときは、単に事実を列挙するのではなく、最も重要な情報から始め、互いに関連し合った情報をまとめるようにしてください。

例えば、円グラフを見ながら政府の歳出についてまとめるとき、最も支出が大きい項目について触れ、その次に中間のもの、最後に支出が小さいものと、グループ分けしながら順番に触れていってください。また、時間が経つにつれ変化していったことについては、上昇傾向にあることに先に触れ、次に下降傾向にあるもの、変化がないものについてまとめて述べます。いちばん大切なのは、最も大きな変化について強調すること。できるだけ論拠となる数字や細かい情報を盛り込むようにしてください。詳細を述べる際

は段落を使ってわかりやすく書くことも大切です。

また、同じ言葉を繰り返し使わず、語彙が豊富にあることを示すようにするといいでしょ。同じことを言う場合でも、例えば下記のように、別の語を用いると効果的です。

増加する：increase/rise 減少する：decrease/fall

変化の様子を示す形容詞を用いるのもいいでしょう。次のようなものを参考にしてください。

gradual (ゆるやかな)、sharp (急激な)、rapid (急速な)

さまざまな文法のパターンが使えることを示すことも心がけてください。次のようなバリエーションを参考にしてください。

there was a steady increase (安定して増加していた)
numbers increased steadily (数字は安定して増加した)

量の対比を表す表現も使えるようにしましょう。

expenditure on cars was almost double that on trains
(ほぼ倍であった)
expenditure on buses was by far the largest of the spending areas
(圧倒的に多かった)

センテンスをつなぐテクニックも必要です。似たようなことをつけ加えるには、次のような言葉を使うといいでしょう。

in addition (つけ加えると)、further more (さらに)

異なる傾向を伝えるには、次のような言葉が使えます。

whereas (～に反して)、in contrast (対照的に)、although (しかしながら)

最初から完璧な文章を目指そうとしないことも大切です。自分でどこを改善していくかを考えながら解答を書くことを重ねることで、文章力が次第に養われます。IELTS の問題集や対策本を使い、お手本の文章と自分が書いたものを比べ、どこを直していけばいいか、少しずつ考えていくようにしましょう。

IELTS™



IELTS.
The international
license.

IELTSという名の 国際免許証

IELTS (International English Language Testing System、アイエルツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約8,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2012年の全世界合計の受験者数は200万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢、埼玉、松本、高知で受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、
公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局まで
www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。



ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS試験対策コースを開講中!!
www.britishcouncil.or.jp



勉強法や留学した人の体験談がわかる
<http://www.facebook.com/IELTS.BritishCouncilJapan>



公益財団法人
日本英語検定協会



公益財団法人 日本英語検定協会は、
ブリティッシュ・カウンシルと日本での
IELTSを共同運営しています